

天然痘

に原因あるやも知るべからず。以上の外、天然痘に罹りし者少なからざるを見る。唯、一烏魯木齊には、牛痘局の設置あるも種痘未だ多く行はれず。否、行はれざるに非ざるが、其の方法宜しからざる爲め、隨て効果あらざるなり。

良醫の皆無

省内醫士として觀るべき者一人も無し。偶、之れ有るは、所謂草根木皮の藪醫のみ。而して住民は多く回教の信者なるか故に、發病を天爲と心得、復た衛生を云々する無し。されば不幸にして、一朝流行惡疫の襲來すること有らんか、新疆人は忽ち其の健康を破られ、忽ち其の生命を奪はるゝ無きを保せず。豈に危からずや。

翻て住民の生活及疾病状態と其の風土との利害關係を比較對照するに、新疆の氣候、地味、水質は、住民の生活に對し、敢て甚だしく不適當と看るを得ず。隨て新疆は、人類の生存發達に、特殊の障害ある風土なりとも謂ふべからず。否、寧ろ民智の進歩、社會文明の發達を圖る有らば、(教育の效果あるや否やは別問題に屬す)克く周圍の風土即ち氣候、地味、水質を利用し、民人の健康と人口とに、一段の進歩を現はすこと、固より難きに非ざるべし。

清國若し今後大に新疆に移民して、富源の開發、國防の完成を謀らんとせば、今に